

言語教育情報研究科

Graduate School of
Language Education and Information Science

guide 2025

言葉を探る

言葉を教える

言葉でつなぐ

Investigating language, teaching language,
and connecting with language.



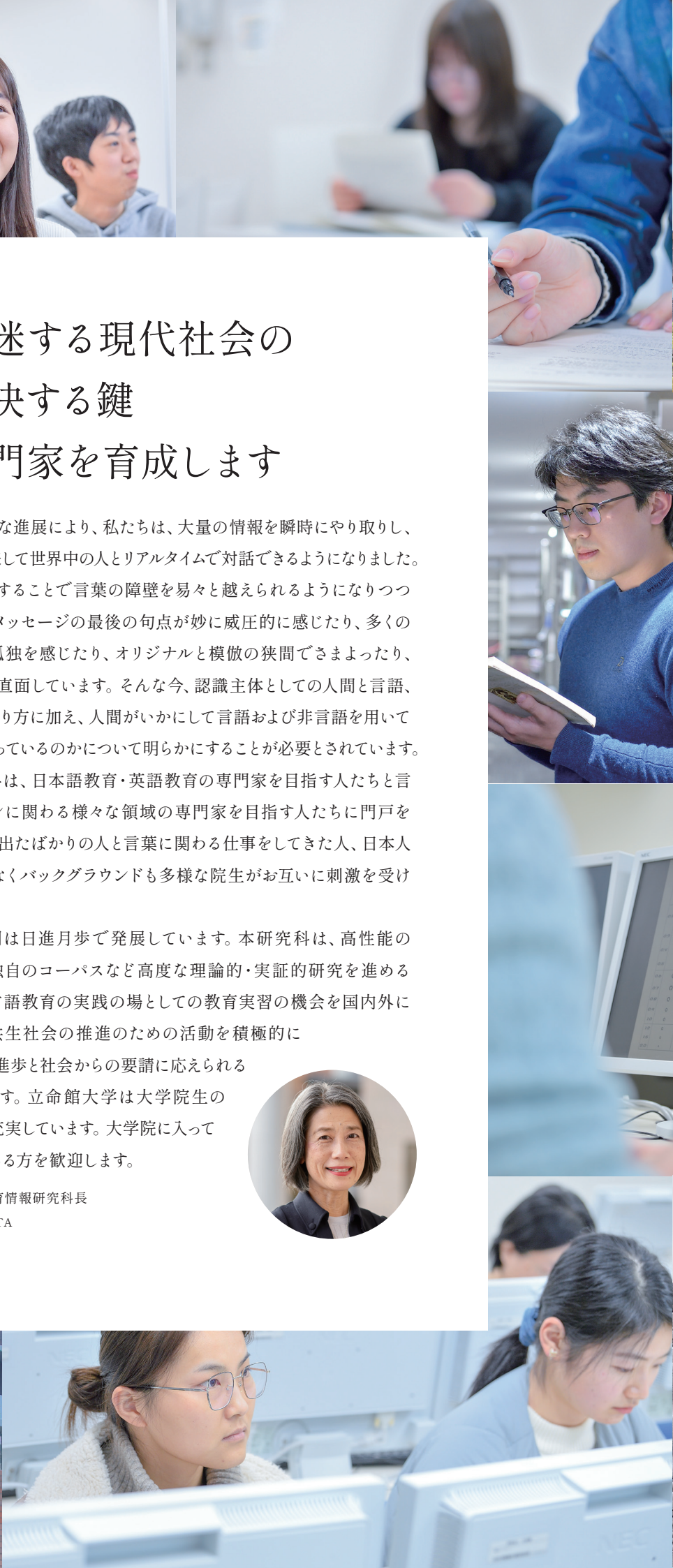
言葉は混迷する現代社会の 課題を解決する鍵 言葉の専門家を育成します

高度情報技術の急速な進展により、私たちは、大量の情報を瞬時にやり取りし、仮想空間を自由に行き来して世界中の人とリアルタイムで対話できるようになりました。さらに、生成AIを活用することで言葉の障壁を易々と越えられるようになりつつあります。その一方で、メッセージの最後の句点が妙に威圧的に感じたり、多くの人と繋がっていながら孤独を感じたり、オリジナルと模倣の狭間でさまよったり、などさまざまな課題にも直面しています。そんな今、認識主体としての人間と言語、そして世界との関係のあり方に加え、人間がいかにして言語および非言語を用いてコミュニケーションを行っているのかについて明らかにすることが必要とされています。

言語教育情報研究科は、日本語教育・英語教育の専門家を目指す人たちと言葉やコミュニケーションに関わる様々な領域の専門家を目指す人たちに門戸を開放しています。学部を出たばかりの人と言葉に関わる仕事をしてきた人、日本人と留学生、関心だけでなくバックグラウンドも多様な院生がお互いに刺激を受けながら研究しています。

言語に関連する学問は日進月歩で発展しています。本研究科は、高性能の脳実験装置や研究科独自のコーパスなど高度な理論的・実証的研究を進める環境が整っています。言語教育の実践の場としての教育実習の機会を国内外に用意し、さらに多文化共生社会の推進のための活動を積極的に支援しています。学問の進歩と社会からの要請に応えられる体制が整備されています。立命館大学は大学院生のための研究助成制度も充実しています。大学院に入ってから成長する心構えのある方を歓迎します。

立命館大学大学院 言語教育情報研究科長
有田 節子 Setsuko ARITA



言語教育情報研究科では、
2024年度より研究科の人材育成目的の具体的実現に向けて、
「英語教育学コース」「日本語教育学コース」
「言語学・コミュニケーション表現学コース」を
3つの柱として設定しています。

言語教育情報研究科は、言語教育学の最新の実践的な応用的分野の教育と研究を中軸に据えた現職教員のリカレント教育の場としても機能する言語教育学分野の高度専門職養成を目的として、2003年4月に開設された修士課程のみの独立研究科です。2023年に20年目を迎え、20年の間に866名の修了生を世に送り出してきました。

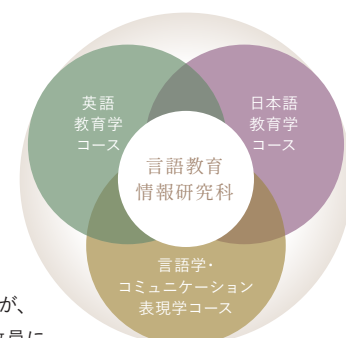
本研究科は高度専門職養成を目的として開設されましたが、修了生には中学校や高等学校の教員になった人や日本語教員になった人だけでなく、それ以外の進路を選択した人も少なくありません。修了生の進路には、民間企業や大学も含まれています。また、博士後期課程に進学し、研究者として活躍している修了生もいます

2024年度から、英語教育学コース、日本語教育学コース、言語学・コミュニケーション表現学コースの3コース体制になり、コミュニケーション表現学の分野での教育を大幅に充実させたカリキュラムに移行することになりました。コミュニケーション表現学は特定の言語を分析対象に限定するのではなく、言語と非言語によるコミュニケーションを分析対象とします。また、表現のあり方についても研究対象とすることができます。

本研究科の教育は、コース間の垣根の低さが特徴の一つです。一部の実習科目を除き、自分が所属するコース以外の科目を受講することができます。自分が関心を持っているテーマを多角的に考察することができる場所、それが言語教育情報研究科です。

人材育成目的

言語教育情報研究科は、英語教育学、日本語教育学、言語学、コミュニケーション表現学の分野において、時代の変化に対応できる専門家としての知識と、電子教材開発／活用の技術、言語情報処理技術、コミュニケーション上の言語／非言語情報の分析技術などをもち、多文化・多言語の状況にある国内外の社会において活躍できる人材、および、研究者への道を志向する人材を育成することを目的とします。



コミュニケーション 関連分野の充実

Feature
01

2024年度よりコミュニケーション関連分野に
新しく3名の教員が加わり、4科目を新設しました。これに
よりコミュニケーション関係の研究指導も更に広範囲に、
更に充実します。コミュニケーション関連分野についての
詳細は「言語学・コミュニケーション表現学コース」の紹
介ページ (p.10-11)でご確認ください。

各コース間の 連携の強化

Feature
02

従来のコース／プログラム構成を、分かりやすく
「言語学・コミュニケーション表現学コース」「英語教育学
コース」「日本語教育学コース」の3コース制としました。所属
コースでの専門性が高い科目は「コースコア科目」として
いますが、他コースの推奨科目も「コース選択科目」として
提示し、履修の検討がしやすいようになりました。

Features 研究科の 5つの特色

今後の社会変化を 見据えた改革と運営

Feature
04

(学園ビジョンR2030
立命館大学チャレンジ・デザインに沿った改革と運営)
世界が大きくかつ急激に変化する中で、立命館学園は「学園
ビジョンR2030」を策定し、未来のあるべき姿を積極的
に社会に提起していくとともに、柔軟に粘り強く変化に対応
できる力を育み、多様な人々が集う学園の創造を通じて社会
に貢献することを追求しています。
本研究科も「学園ビジョンR2030 立命館大学チャレンジ・
デザイン」に基づき、新カリキュラムにおいて2030年の社会
を想定した人材育成に努力します。新たな課題領域を
切り開く想像力と創造力を携え、歴史を俯瞰して2030年
の社会状況に立ち向かえる人材育成に取り組みます。

インターネットを 介した授業

Feature
05

インターネットを介した授業は対面での授業に
比して授業効率／教育効果を落とさないよう注意しなければ
ならない側面がある一方で、教室の外に開かれた授業形態を
可能にする側面があります。遠隔地にいる方に授業の中で
インタビューを行ったりすることが可能になります。受講生
全員がオンライン・ライブ配信で受講するメディアを利用した
科目は2023年度の7科目から2024年度以降は9科目に
増やしています。
また、一部の受講生がオンラインで受講するハイブリッド
形態に対応する科目は、2023年度の6科目から8科目に
増やしています。
※オンライン授業のみで修了できるということではありません。詳しくは研究科まで
お問い合わせください。

科目紹介

科目名称内の記号

E:英語教育学コース J:日本語教育学コース L:言語学・コミュニケーション表現学コース C:研究科共通科目 R:研究指導科目

※科目名称は変更されることがあります



当研究科ホームページには
さらにディプロマ・ポリシー、
カリキュラム・ポリシー、
アドミッション・ポリシーを
掲載しています。

研究指導科目			
R01- 研究基礎論1	R02- 研究基礎論2	R03- 課題研究演習Ⅰ	R04- 課題研究演習Ⅱ

専門科目			
コースでの学びの中核となる科目(コースコア科目)または学びの幅を広げる科目(コース選択科目)があります どのコースに所属していても他コースの科目を履修できます ※「J13-日本語教育学演習(日本語教育実習)」は日本語教育学コース所属者のみ履修可			
英語教育学コース	日本語教育学コース	言語学・コミュニケーション表現学コース	
<ul style="list-style-type: none">●E01- 英語教育学総論●E02- 第二言語習得論●E03- 英語学(文法論)●E04- 早期英語教育論●●E05- 言語教育における測定と評価●E06- 英語教育における語彙習得論●E07- 英語教育学の諸問題●E08- 英語教育インターンシップ●E09- 英語授業分析・教材開発演習●E10- TESOL教授法と実習●E11- TESOLリサーチスキルズ	<ul style="list-style-type: none">●J01- 日本語を対象とした第二言語習得論●J02- 日本語教育学総論●J03- 日本語教授法・教材論●J04- 言語文化教育論●J05- 年少者日本語教育論●J06- 日本語学(語彙・意味)●J07- 日本語学(文法)●J08- 語用論・談話分析●J09- 日本語教育学の諸問題●J10- 日本語教材開発演習●J11- 日本語教育実践演習●J12- 多文化共生実践演習●J13- 日本語教育学演習(日本語教育実習)	<ul style="list-style-type: none">●●●L01- 音声学・音韻論●●L02- 意味論・語用論●●L03- 形態論・統語論●●L04- 英語語法文法研究●●L05- 対照表現研究●●L06- 認知言語学●●L07- 英語語法文法分析演習●●L08- 言語調査法演習●●L09- 言語記述方法論●●L10- バイリンガリズム●●L11- 言語情報学の諸問題	
		研究科共通科目	
		●●●C02- 電子教材開発演習	

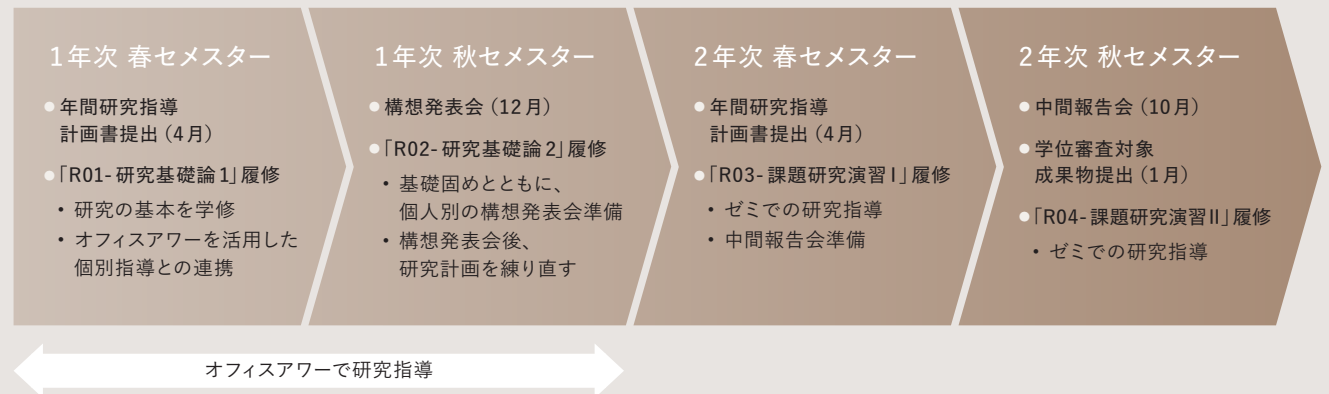
※科目区分(コースコア科目、コース選択科目)は所属コースにより異なります。コースにより色分けした●●●がコースコア科目、それ以外がコース選択科目となります。

●英語教育学コースコア科目 ●日本語教育学コースコア科目 ●●言語学・コミュニケーション表現学コースコア科目

研究科共通科目			
C01- 応用言語学のための統計解析 C03- 基礎言語情報処理	C04- 外国語教育学新展開講義 C05- 英語翻訳学演習	C06- 英語アカデミックスキル演習 C07- 日本語アカデミックライティング	C08- 特殊講義

2年間の研究指導の流れ

4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)



英語教育学コース

English Language Education Course



大学4年間で英語の一種免許を取得した（または、あと少して取得予定の）段階から更に深く英語教育学・英語学を学ぶことで専修免許を取得し、現場で高い専門知識・技量を持った英語教員として活躍できるカリキュラムを提供しています。海外の大学と共同開講しているTESOLプログラムを履修することで国際水準を満たすTESOL Certificateを取得することもできます。また、在学中に教育現場体験ができるように、近隣の府立高等学校でのインターンシップも提供しています。情報コミュニケーション・日本語教育学・言語脳科学等のコース提供の講義も受講できますので、修了後に教職だけでなく研究職や一般企業就職等に幅広く対応しています。

仕事と研究の両立

社会人院生の仕事と研究の両立について、仕事を持ちながら英語教育学コースに在学・修了した2名にインタビューしています！詳しくは研究科HPをご覧ください。



Curriculum | カリキュラムの特色 |

英語教育関連科目（講義系）

外国語教育の基礎となる第二言語習得理論、その研究成果を踏まえた英語教育学総論、英語教育における語彙習得論、言語教育における測定と評価、カリキュラム設計とシラバスデザイン、そして、日本での英語教育において重要度が増している早期英語教育論などの科目を配置しています。また、外国語教育学新展開講義目も有用です。これからの英語教育を担っていく教員に必要な、高度な専門性を身につけることができるカリキュラムになっています。

英語学関連科目

英語の音声学・音韻論、文法論などの科目を配置しています。英語学に関しては言語学・コミュニケーション表現学コースで設定している内容も多く、意味論・語用論、形態論・統語論、英語語法文法研究、対照表現研究などが学べます。本研究科で学ぶことができる英語学の知識・分析方法は、英語教師にとって必須であるだけでなく、英語学分野の研究を深く続けたいと考える人にとっても重要な基礎となるものです。

実践・演習系科目

英語教育における実践力をつけるために、模擬授業や教材開発に関する科目、英語翻訳学演習、電子教材開発演習、英語教育インターンシップなどの科目を配置しています。また、海外の協定校で行うTESOLプログラムでは、TESOLの理論から実践までを5週間でカバーします。新しい統合型の英語技能学習指導は授業分析のための実践的科目であり、言語学・コミュニケーション表現学コースのコーパスによる言語分析演習も有用な科目です。

Career Path | 想定される進路 |

英語教育学コースでは、現代社会のニーズに応えられる先進的な英語教育学の理論と実践技術・教育力、英語教育に関する知見を身につけることができます。このような能力を活かして主に下記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

- 英語教員（小学校・中学校・高校・大学の英語教員）
- 博士課程進学（英語教育に関する分野）
- 教育・出版事業（企画／編集／開発分野、学習塾など）



Student's Voice | 在学生の声



大学4年生時に英語教育について学びたいと思い、本研究科への進学を決めました。学部時代に留学を目標に英語学習に力を入れ、学内留学生と積極的に交流し、英語教育における生徒への動機付けに関心を抱くようになりました。研究科で英語教育学を学ぶことで、理論に基づいた指導法が学習者の英語習得に役立つという点に魅力を感じました。現在は日本人英語学習者を対象にした、冠詞の習得を促進するインプット指導に関心があります。入学後、英語ライティングの機会が増え、冠詞について考えるようになりました。習得が困難である冠詞において効果的な指導法について勉強を継続していきたいと考えています。修了後は英語教員になることを志望し、学部で教職科目も履修しています。履修科目や課題が多く大変な状況ではありますが、この大学は私の挑戦を後押しする環境が充実しており、家族や友人の支えもあるので、目標に向けて精進したいと思います。

英語教育学プログラム 2023年4月入学 岩田 千咲さん

Message | 修了生の声

修了後、立命館中学校・高等学校で勤務をしています。グローバル教育に力を入れている小中高一貫校で9年間自信を持ち教育活動ができているのは言語研での学びのおかげだと断言できます。英語教育学総論、早期英語教育、評価および測定等を学び、教材開発や模擬授業を熱意のある同志と研究し教授からフィードバックを得られる。その実践として、府立高校でのインターンシップやTESOL取得プログラムで理論と実践を同時に学べたことが現在に役立っています。英語教育のプロを目指す上で、必要な要素が凝縮された体系的なプログラムで学ぶことができた実感しています。学部時代で6カ月間留学経験がありましたが、さらに自信を持って教壇に立つために、1年間交換留学をし、そこで修士論文のテーマであった“タスク型のスピーキングテスト”の研究も深めることができました。熱意のある同志、愛情あふれる教授陣に囲まれた何にも代え難い充実した3年間でした。

英語教育学プログラム 2014年度修了 立命館中学校・高等学校専任教諭 中野 喬介さん



日本語教育学コース

Japanese Language Education Course



日本語教師、日本語教育の専門家に必要な、言語学習のプロセス、言語教育、言語、言語と文化／社会の関係などの高度な専門知識と研究方法を学び、国内外の日本語教育機関における教育実習で実践力を身につけることができる体系的なカリキュラムを設定しています。所定の条件を満たすと日本語教員養成課程の修了証を取得できます。学部で日本語教育や日本語学を専攻した人、現職の日本語教師の方や日本語や日本文化を専門として学んだ留学生など、多様なバックグラウンドを持った院生が互いに刺激し合い、切磋琢磨できる環境・内容を提供しています。



日本語教育実習のこと

言語教育情報研究科では、日本語教育学コースの院生に対して、国内外の日本語教育機関において教育実習を行う機会を設けています。実際に実習で学んだ院生のインタビューはこちらをご覧ください。

Curriculum | カリキュラムの特色 |

日本語教育関連科目（講義系）

日本語教育の基礎から応用までの主たる内容として、日本語を対象とした第二言語習得論、日本語教育総論、教授法・教材論、そして言語教育における文化教育論、年少者日本語教育論などの科目を配置しています。日本語教育の知識・実践方法を学ぶというだけでなく、多様な学習者や教育環境に合わせて最適解を自分で考えることができるように、各自の応用力をつけることを目指す内容です。

日本語学関連科目

日本語の音声・音韻、語彙と意味、文法、語用論、談話分析などの科目を、言語学的な視点と応用言語学的な視点で学べるように配置しています。ここで学ぶ日本語学の知識・分析方法は、日本語を外国語として教えるためにも、また、日本語を言語学的に研究するためにも重要な基礎となるものです。

実践・演習系科目

日本語教育における実践力をつけるために、教材開発演習、電子教材開発演習、多文化共生実践演習、日本語教育実践演習（模擬授業含む）、日本語教育学演習（協定校での実習）などの科目を配置しています。特に協定校での実習は、国内の日本語教育機関だけでなく、英語圏、中国語圏、韓国、ベトナムでの実習機会も提供しており、国内外で活躍できる日本語教師の育成を目指したものです。また、正課外の活動として、府立高校での日本語教育ボランティアなどの活動も行っています。

Career Path | 想定される進路 |

日本語教育学コースでは、多様な日本語教育の現場で主体的に日本語教育を展開することができる高度な専門的知識と実践力を身につけます。それを活かして、以下のような進路で活躍できる人材を輩出しています。

- 日本語教師、日本語教育の専門家
国内外の大学、専門学校、日本語学校などの日本語教員、国際交流基金や国際協力機構（JICA）の日本語専門家、地域日本語教室の日本語教育コーディネーター／日本語教師、小中高等学校の外国ルーツの児童生徒を対象とした日本語指導員など
- 本学文学研究科や他大学の博士後期課程への進学
（日本語教育学、日本語学などを専門とする研究者）
- 教育／出版関係など、日本語教育や言語に関する知見とスキルを活かせる業界



Student's Voice | 在学生の声



私は中国で日本語教師として働いていましたが、多くの生徒が日本語の発音に苦労していました。この問題に対処するためには、発音に関する効果的な教授法や教材の分析などの能力を身に付けることも重要であると痛感し、立命館大学の言語教育情報研究科に入学して大学院で日本語音声教育に関する研究に専念することにしました。入学後は、日本語教育学の全体像から教授法の適用方法、教材作成の原理などへの洞察を深め、研究倫理や研究方法に関する基礎を築き、自身の研究分野について深く掘り下げることができています。また、複数の教授からの貴重なアドバイスを頂くことや、同期の学生たちとの交流からも大きな刺激を受けています。私自身の考えがより広い視野で再構築され、研究に対するモチベーションが一層高まりました。修了後は、日本語教育の現場に戻り、研究科で得たスキルを生かし、音声指導に専門性を持った教師として活躍したいと考えています。

日本語教育学プログラム 2023年4月入学 NIU Lin さん

Message | 修了生の声

修了後、イギリスの高校や日本の大学で日本語を教え、2024年の4月からは関西学院大学の日本語教育センターに日本語講師として勤務しております。日本語教育に関する知識がほぼゼロの状態でも言語教育情報研究科に進学しましたが、日本語教授法や教材開発から第二言語習得論に至るまで、懇切丁寧に教えていただき、日本語教師や英語教師を目指す仲間たちにも恵まれ、充実した2年間を過ごしました。リサーチペーパーでは、参与観察を通じて外国人児童生徒が教科学習において直面する課題を分析し、学習サポートのあり方について考察しました。先生方には親身になってサポートしていただき、現在でも応援していただいたり、アドバイスをいただいたりと、交流が続いています。日本語教師として働き続けていられるのは、言語教育情報研究科での出会いと学びがあったからこそだと思っています。言語教育に携わりたいと考えている方すべてに自信を持ってお勧めできる研究科です。

日本語教育学プログラム 2005年度修了 関西学院大学日本語教育センター常勤講師 岩本 稯志 さん





本コースは、言語学とコミュニケーション表現学の分野で大学院生が様々な事象を研究できるようになる教育を行っています。日本語や英語といった個別言語を研究対象とするだけでなく、複数の言語の対照研究や各言語の方言の研究も可能です。また、過去の修士論文の中には、日本語や英語の研究成果を応用してモンゴル語やチベット語や中国語を分析したものもあります。さらに、対面調査だけでなくコーパスを使った研究や脳科学による言語研究の方法も学ぶことができます。一方、コミュニケーション表現については、具体的な音声表現・文章表現の作品分析から現実の社会生活場面の相互行為分析に亘る、多様なコミュニケーション表現事例の研究方法を学ぶことができます。

コース・領域紹介

言語学・コミュニケーション表現学コースのことをもっと詳しく知っていたい修了生のインタビュー記事や領域紹介を言語教育情報研究科HPでご覧いただけます。



Curriculum | カリキュラムの特色 |

言語学関連科目

音韻論、形態論、統語論、意味論、社会言語学といった言語学の諸分野を扱う科目を配置しています。言語類型論の知見を取り入れた講義は、日本語や英語以外の言語の分析にも役立つ内容になっています。新しい知見を得るには、生成文法などの言語理論を学ぶのに加え、調査や分析の方法も学ぶ必要があります。フィールドワークやアンケート調査のノウハウを学ぶことができる科目も開設しています。文理融合的な科目も開設しています。コーパス分析の科目では、用意されたソフトウェアを使うのではなく、テキストエディタなどによるデータの分析ができる力を身につけることができます。また、脳血流計を使った言語脳科学の科目では、母語と第2言語の脳活動を分析する方法を学ぶことができます。

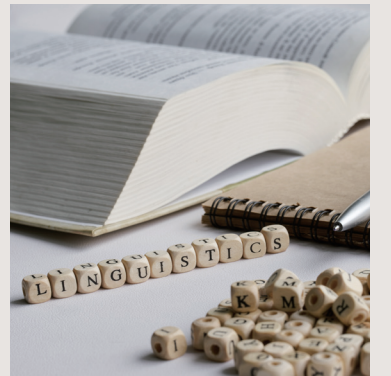
コミュニケーション表現学関連科目

認知言語学、語用論、コミュニケーション論、相互行為分析、表現メディア研究といったコミュニケーション表現学の諸分野を扱う科目を配置しています。ことばを探究する視点として、特定の語句や文などの表現が、どのような心の作用と関係があるのか、他人に何を伝達しうなのか、社会の営みにどう貢献しているのかを学ぶことができます。また、小説やアニメなどのことばを用いたさまざまな表現媒体の作品を分析するための基礎を学ぶことができる科目も開設しています。コミュニケーション表現学を複数の視点から観察・説明できるようになるために、各科目で討議やさまざまな実践体験の機会もあります。たとえば、会話場面を収録するためのノウハウ、分析のための動画や音声の編集やアノテーションソフトウェアの操作方法だけでなく、文章表現・音声表現の機能を考慮したプレゼンテーションやアウトリーチの方法・技術を身につけることができます。

Career Path | 想定される進路 |

言語学・コミュニケーション表現学コースでは、言語学の専門知識を身につけることができるほか、テキスト処理技術に関する専門知識などの能力を身につけることができます。また、単なる意思疎通能力としてのコミュニケーションスキルを超えた、実社会で活躍することを可能にする次世代型コミュニケーション能力や、表現分析に関する専門知識や今日のメディア環境に対応する文章表現・音声表現の実践能力などを身につけることができます。このような能力を活かして主に右記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

- 博士課程後期（文学研究科、他大学）進学（言語学など）
- 製造分野（システムエンジニア／研究／開発など）
- 出版社／教育事業分野（企画／編集／開発など）
- 情報・通信分野（新聞／放送／映像・音声・文字情報制作／インターネット関連など）
- サービス分野（コンサルティング／広告／システム／福祉など）



Student's Voice | 在学生の声



学部時代に全中国選抜日本語スピーチコンテストに参加し、中国各地出身の日本語学習者たちと交流を持ちました。その時に他人が使う日本語を分析することも興味深いと感じ、それ以来、言語学に興味を持つようになりました。大学院を複数校受験しましたが、言語教育情報研究科の先生方がとても真摯に向き合ってくださり、研究計画を評価し、研究方法に關しての助言もいただきました。これが本研究科に進学する決め手になりました。入学後は日本語会話における「フィラー」をテーマにし、実際の会話を録音して分析するという手法を想定していましたが、先生の助言もあり、コーパスの大規模用例集から「フィラー」を抽出し、それぞれの特徴や役割を浮き彫りにし、分析する研究をしています。言語研究において「フィラー」は認知言語学の観点で徐々に注目されつつあります。この研究を通じて日本語のスピーキング能力を向上させるための手法に繋げたいと考えています。

言語情報コミュニケーションコース 2022年9月入学 ZENG Sule さん

Message | 修了生の声

私は現在、立命館大学生命科学部などで展開している「プロジェクト発信型英語プログラム」の運営に関わっています。英語とICTを知的生産のインフラと位置づけるこのプログラムでは、言語教育情報研究科で学んだことが十二分に活用できており、同じく研究科を修了した同僚らとともにやり甲斐のある日々を送っています。英語とICTの両方を学べる研究科に進学したからこそ今の私があります。自分次第で多くの刺激とチャンスと人脈を手に入れられる場所ですので、後輩院生にはぜひアクティブかつ貪欲に、研究科のリソースを利用してもらいたいです。

言語情報コミュニケーションコース 2005年度修了 立命館大学生命科学部教授 木村 修平 さん



修士論文の例

英語教育学コース (英語教育学プログラム)

- Brain Activation and Eye-Movement during Interpreting in Professional Interpreters and Trilingual Students
- A Study on Intentional Learning of Two-word Combinations at Different Difficulty Levels: The Effect of Frequency Level
- How can Machine Translation Help Students in an Academic Writing Task?

日本語教育学コース (日本語教育学プログラム)

- オンラインでの協働的な学びにおける学習者オートノミーの発達—グループディスカッションを高めたいと思っている中国人留学生に対する縦断的調査をもとに—
- 中国語の「形容詞と補語」を述語にする“被”受身文の構文的特徴
- 中国人高校生の日本語コロケーション習得に関する研究—「中国語の知識を直接に利用できる名詞+を+和語動詞」型に着目して—

言語学・コミュニケーション表現学コース (言語情報コミュニケーションコース)

- アムドチベット語方言の現状調査:中国四川省アバチベット族チン族自治州九寨溝県を中心に
- コロケーション「名詞+を+動詞」における活用形の偏りに関する研究
- 非意図的な出来事を表す他動詞表現と責任意識:日本語と中国語との対照研究



過去3年分の修士論文論題はコチラ

進路

教職

- 公立学校教諭
京都府／京都市／亀岡市／大阪府／大阪市／兵庫県／西宮市／愛媛県／岐阜県／福井県／愛知県／神奈川県／東京都／京都教育大学附属桃山中学校／東京大学附属中等教育学校
- 私立学校教諭
立命館大学系列中学・高等学校／同志社大学系列中学・高等学校／西大和学園中学校・高等学校／京都女子高等学校・京都女子中学校／京都光華中学校高等学校

- 日本語教師
京都日本語学校／京都文化日本語学校／ECC国際外語専門学校／エール学園／メリック外語学院／関西外語専門学校大阪YWCA／立命館大学／立命館アジア太平洋大学／滋賀大学／九州大学／山東交通学院（中国）／建陽大学（韓国）／タマサート大学（タイ）／青年海外協力隊

企業

JTB／NEC／NTTドコモ／P&G ジャパン／アクセンチュア／アップルコンピューター・シンガポール法人／かんぽ生命京セラ／サッポロビール／サントリー／ソニー／ニチコン／ニトリ／日本航空／日本生命／日本通運／日本特殊陶業／バンダイ／富士ソフト／富士通／三菱自動車／ユーシン精機／ヨドバシカメラ／国立大学法人職員／私立大学職員／国際協力機構（JICA）／国際交流基金



資格・免許

教育職員免許状

言語教育情報研究科では、高等学校専修免許状（英語）と中学校専修免許状（英語）の取得が可能です。1種免許状を既に有している場合は、指定された科目のうちから24単位以上単位取得し、修士学位を取得することによって専修免許状を取得できます。

TESOL

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)は英語非母語話者への英語教授を表す用語です。本研究科では、海外大学において夏期にプログラムを開講しており、修了者にはCertificateが授与されます。この資格は日本で英語教員になるために必要ではありませんが、英語教育の専門資格として国際的に評価されるものです。

日本語教員養成課程

言語教育情報研究科では、法務省出入国在留管理庁が定めた「日本語教育機関の告示基準」及び「日本語教育機関の告示基準解釈指針」を満たした日本語教員養成課程を設置しています。2024年度から新しく施行される登録日本語教員の制度において登録日本語教員の資格を得るためには、本研究科の日本語教員養成課程の修了に加えて必要な試験に合格することが求められます。

究論館

(大学院生用研究施設)

2015年4月に開設された大学院生のための研究施設です。院生が個人で利用できる机（キャレル）や、研究科や専門を超えて、グループでのディスカッション、共同研究、研究成果の発信・共有などができる院生のためのスペースとしてリサーチcommonsを設置しています。



多文化共生をめざした日本語支援活動

「すきやねん ほんご」は、衣笠キャンパス近隣地域の住民や立命館大学の留学生などを対象に、院生が一人の市民として対等な立場で日本語の支援をしながら学んでいく互恵的な活動です。活動は、基本的に院生によって主体的に運営され、対象者のニーズに応じた日本語のサポート、多言語多文化交流などを行っています。参加者すべてがお互いの長所を活かしながら協働的に学び合い、支援する・支援されるという関係性を越えた活動、院生同士で工夫しあい、一人ひとりの学習者に向き合いながら進める活動をめざしています。また、それらの活動について、授業等で省察し、課題について改善を加えながら実践を進めます。



言語脳科学研究

言語教育情報研究科では、2010年度以降研究科プロジェクトとして脳科学による言語処理メカニズム解明研究を、教員と院生が共同研究者となり取り組んでいます。科研費等学内外の研究費を獲得して、人文系研究科としては極めて珍しい大型機器（島津製作所 OMM-3000）を所有した特色ある研究を進めています。英語学習者・バイリンガル帰国生・中国人プロ中日英通訳者・国際結婚家庭児等を対象として言語習得・喪失現象を言語面に加えて脳賦活様態を多面的に探る研究を進めてきました。最近は、これに加えて脳波や眼球運動データも同時収集して、基礎研究からワーキングメモリモデルを基盤とする仮説検証型研究へと徐々に移行しています。将来的に効果的な外国学習法や喪失しないための方略に繋がる研究を進める為です。



コーパス

コーパスとは、コンピュータで処理できる大量の言語資料を指します。人間であれば100年かかる作業がコンピュータだとほんの数秒でできます。コンピュータがもつこの桁違いの情報処理能力を駆使して、これまでの言語研究では見逃されてきた構文や、語と語の慣習的な結び付きであるコロケーションなどを詳細に記述することが可能になりました。コーパスから適切に情報を抽出するためには言語学的な分析力と機械についてのある程度の知識が不可欠ですが、これらの知識を駆使し、本研究科が保有する高性能のコーパス用サーバーと膨大な量のコーパスを活用することで、英語・日本語の諸特徴を探っていきます。現在はコーパスを処理するための便利なソフトがありますが、可能な限りそれらには依拠せず、処理過程を透明にし、コーパスをブラックボックスにしない方法を考えます。



教員紹介

David Coulson 教授

〔専門領域〕
Second Language Vocabulary Acquisition,
TESOL, CLIL, SLA

主に英語教育学コースを担当

My research activity these two years has been the learning and use of collocations by learners of English. The results show a very surprising, unexpected pattern that emphasize the importance of vocabulary learning. More research in this area is necessary. In addition, I am interested in various other vocabulary research topics. In the last year, I have conducted research about the development of vocabulary ability after an intensive extensive reading course. Many research topics like this are possible. In addition, I am interested in applied linguistics and second language education topics, particularly translation in second language learning. I also try to publish research papers with students.

佐野 愛子 教授

〔専門領域〕
バイリンガル教育、ライティング教育、英語教育

主に英語教育学コースを担当

バイリンガルであること、バイリンガルになること、バイリンガルを育てることについて、とくにリテラシーの獲得に焦点を当てながら様々なコンテキスト（英語教育、日本手話と日本語のバイリンガル教育としてのろう教育、外国にルーツのある子どもたちのリテラシー教育、海外における継承日本語教育）で研究をしています。バイリンガルの子どもたちが、「〇〇語に課題のある子どもたち」と捉えられるのではなく、「多様な言語資源を持つ子どもたち」として評価され、その言語資源が十全に活用されるような教育のあり方について考えています。

清水 裕子 教授

〔専門領域〕
英語教育学、言語テスト、
ESP:English for Specific Purposes

主に英語教育学コースを担当

言語教育における測定と評価に関連する領域を研究対象としています。最近の英語教育における産出能力テストの導入の動きは、様々な波及効果を与えていくと予想でき、教室環境での言語テストとカリキュラムの親和性の経年分析を通して、テストが備えるべき要素のひとつである妥当性について研究を進めています。もうひとつの領域として、ESP（English for Specific Purposesの観点からのカリキュラム設計や教材開発にも興味をもっております。

田浦 秀幸 教授

〔専門領域〕
英語教育学・第2言語習得論・
バイリンガリズム（神経）心理言語学、言語習得と喪失

主に英語教育学コースを担当

大きく分けて2分野の研究を進めています。第1のテーマは（神経）心理言語学分野に関するもので、バイリンガルの第2言語獲得・保持・喪失を言語面・脳科学面両面から扱っています。第2の研究テーマは、効果的な英語教育についての研究です。理論研究と現場実践を車の両輪と考え、どちらにも偏らずそれぞれお互いに還元できる研究を心がけています。

津熊 良政 教授

〔専門領域〕
言語間における対照音声学的研究

主に英語教育学コースを担当

わたしは、主にリズム・アクセント・イントネーションなど言語間における韻律的特徴の対照音声学的研究を課題として、日本語、英語、中国語等の韻律研究を続けています。実験音声学的手法を用い、スピーチデータの音響分析を通じて、諸言語の様々な音声特徴と音韻ルールを客観的に解明し、その結果を外国語教育、とりわけ英語や日本語音声教育に生かしていきたいと考えています。

山崎 のぞみ 教授

〔専門領域〕
英語教育学、語用論、談話研究

主に英語教育学コースを担当

英語学と英語教育学の橋渡しを目指しています。特に、語用論や談話分析の知見を援用し、またコーパス分析を併用しながら、会話に見られる周辺的な言語現象とコミュニケーションの関係を探っています。このような話し言葉研究を英語教育へ応用することによって、文法指導、インタラクション指導、コーパスを使った学習、言語活動、教材開発の分野に新たな視点を提供したいと考えています。

有田 節子 教授

〔専門領域〕
言語学、日本語学、
日本語文法研究の日本語教育への応用

主に日本語教育学コースを担当

現代日本語の文法と意味についての言語学的研究を日本語教育に活かすことを目指しています。日本語のみならず、さまざまな言語の文法現象の分析に適用可能な枠組みで研究を進めることにより、さまざまな母語を持つ学習者に対する日本語教育に貢献したいと思っています。特に、日本語非母語話者の日本語教育者、日本語研究者にとって本当に必要な知識・技能とは何かについて常に考えながら研究・教育に取り組んでいます。

大島 弥生 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、談話分析

主に日本語教育学コースを担当

留学生に対する日本語教育、特にアカデミック・ライティングについての教育・研究を行っています。留学生が産出する文章の特徴を探る中で、読んだものや聞いたものなどの外からの情報をどう自己の文章に取り込み、情報への解釈や評価を表していくかに興味を持っています。留学生が目標とする学術論文ジャンルについても、その言語的特徴を探り、教材開発につなげたいと思っています。同時に、レポートを書くプロセスにおいてお互いに書き手・読み手となって意見を交換する協働学習やジグソー学習の中で、どのような情報のやりとりが起こっているのか、何を学んでいるのか、という点も研究テーマとしています。

北出 慶子 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、談話分析、言語教師教育、質的研究

主に日本語教育学コースを担当

多文化共生社会で求められる言語教育の形とは何か、そのような教育実践ができる教師を育成するにはどうすればよいか、について研究しています。具体的には、①複言語・複文化を有する人や複数の言語文化を越える経験をした人の語りに着目したライフストーリーの研究、②新しい時代に求められる言語教師教育プログラムの開発・検証、③受講生の多様な背景を活かした学び合い（共修）の場やコミュニティの創出、について取り組んでいます。

遠山 千佳 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、第二言語習得研究、多文化共生論

主に日本語教育学コースを担当

第二言語としての日本語の文法や表現の習得過程を相互行為の側面から捉え、文脈や状況の要因を取り入れた語用論的能力、談話構築能力の発達を研究しています。第二言語による談話構築は、母語や習得環境、個々の相互行為の経験をはじめ、第二言語を使う上でのストラテジーなど多くの要因が絡まっています。談話の機能の観点からこれらを複合的に捉え、談話教育につなげる研究をしています。また、多文化共生に基づく日本語支援コミュニティづくりの実践、多文化共生キャンパスの創成に向けた研究をしています。

平田 裕 教授

〔専門領域〕
日本語教育学、日本語の歴史言語学、
言語変化とバリエーション

主に日本語教育学コースを担当

大きく分けて2つの分野の研究をしています。第1は、教室での日本語教授法、教材、テスト、自習の位置づけや内容などについて、より普遍的で一貫したアプローチによって向上させていく方法を研究しています。第2は、競合する語形／表現から生まれる使い分けや取捨選択、様々な言語／方言で見られる共通の現象、似ているけれども少し違う現象などを検証し、どのように言語を捉えるべきかを研究しています。

岡本 雅史 教授

〔専門領域〕
コミュニケーション研究、言語学（認知言語学・語用論）

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

一貫してコミュニケーションとリアリティを二大研究テーマとしており、人間はいかにして言語・非言語を用いてコミュニケーションを行っているのか、世界をどのように言語によって分節化し、認知しているのか、さらにはどのようにして世界と現実感（リアリティ）を持って接することができるのか、等について言語・非言語の観点から考察・研究を進めています。近年は漫才対話に着想を得た《オープンコミュニケーション》という概念をベースに、漫才・コントから日常会話に至るまで、多様な相互行為場面の分析に取り組んでいます。

佐々木 冠 教授

〔専門領域〕
言語学、日本語方言文法記述

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

日本語の方言の文法記述が主な専門です。類型論や理論言語学の知見を活かして方言の形態音韻論、格、文法関係、態について分析しています。様々な言語の分析を参考に方言の文法を分析するだけでなく、方言の分析から理論的な貢献をすることも心がけています。言語接触による言語変化など社会言語学的なテーマにも関心があります。東日本の方言を中心に研究してきました。西日本の方言への理解を深めたいと思う今日この頃です。

佐野 まさき 教授

〔専門領域〕
生成文法、比較統語論、構文意味分析

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

研究しているのは次のようなものです。①言語間あるいは言語内のWh疑問文の比較（日本語では「誰がなぜ泣いたの?」はOKでも「なぜ誰が泣いたの?」はダメな文、英語ではWho cried why?もWhy did who cry?もダメな文）。②日本語のとりたて詞（ダケ、サエ、モ等）とそれに対応する英語（only, even, also等）との比較、③日本語の複文とそれに対応する英語との比較、④日本語の敬語の普遍文法からの考察、など。自分（母語）を観察するのは案外難しいものです。それを、他人（外国語）の目を通して観察すると、自分も他人もよく見えてくることがあります。

城 綾実 准教授

〔専門領域〕
会話分析、コミュニケーション論

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

私の研究は、会話分析と呼ばれる観察科学を用いて、録音・録画した多様な相互行為の成り立ちや構造を明らかにし、私たちに備わる社会成員としての能力の豊かさを示すことです。言葉だけでなく、言葉を発する際の声の出し方、視線の動きやジェスチャーのような身体動作、周囲の道具や環境などにも着目した分析をしています。現代社会の実際的な理解や諸問題解決への一助として、介護、医療、科学コミュニケーション場面などの研究にもかかわっています。

杉村 美奈 准教授

〔専門領域〕
言語学（統語論、統語論・形態論インターフェース）

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

生成文法理論の枠組みにおいて、再構造化（restructuring）現象、「[が]」格目的語の認可条件、複雑述語（complex predicates）形成、主要部移動（head movement）などが関わる統語現象を研究対象とし、それらの現象を説明する理論構築を行っています。主に英語や日本語を対象言語としていますが、研究対象に関連する他言語のデータも考察します。統語論と形態論が関わり合う言語現象に興味があり、語の仕組みや接辞の具現化に関わる問題を統語論においてどのように説明できるかなど、統語論・形態論インターフェース研究にも取り組んでいます。

滝沢 直宏 教授

〔専門領域〕
英語学、コーパス利用の方法論研究

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

これまでの英語学研究で周知的あるいは例外的とされ、不十分にあるいは全く研究されていなかった構文的現象を発掘し、その詳細な記述と理論的意味合いを考察しています。また、句の慣習的結合関係であるコロケーションの記述的研究も行っています。最近は特にly副詞の振る舞いに関心をもっています。両者の研究に深く関わるコーパス利用についても、その方法論自体を研究対象にしています。

西岡 亜紀 教授

〔専門領域〕
比較文学・文化、声と図像のメディア、文章表現教育

主に言語学・コミュニケーション表現学コースを担当

詩や小説はどのようにして生まれるのか。文芸のテキスト分析や異なる言語や表現メディア間の対照分析、それらを踏まえたライティング教育を専門としています。詩や小説などの文字のメディアはもちろん、絵解き・紙芝居・マンガ・アニメーションなどの声や図像のメディアも扱います。現代のメディア環境のなかで多様化するフィクションが、既存のフィクションの歴史性や思想性をどう継承するのか（できるか）を問い続けています。こうした研究を通して、出版分野、教育分野、サービス分野などで、次世代の表現実践を支える人材を育てることを目指しています。

Access



Campus Map



キャンパスマップ

創思館（研究科基本棟）



平井嘉一郎記念図書館



訪問を 歓迎します

言語教育情報研究科への進学を考えている方、実際にキャンパスへ来てみませんか？本研究科では春と秋に授業見学企画を開催していますので、気軽に参加してください。Zoomで見学できる授業もあります。詳細は言語教育情報研究科のHP〈<https://www.ritsumeit.ac.jp/gsleis/>〉をご覧ください。

言語教育情報研究科の教員と連絡をとりたい場合は、氏名、連絡先、研究テーマを明記し、衣笠独立研究科事務室まで電子メールで連絡してください。尚、受験を予定している入学試験の出願開始日2週間前から入学試験当日までの間は教員と連絡をとることはできません。

2024年度実施入試日程

選考方法、出願資格などの詳細は入学試験要項をご確認ください

出願期間		試験日	合格発表日	実施する入試方式
2024年 9月入学	2024年5月30日(木) ～2024年6月13日(木)	2024年7月7日(日) ※海外在住者は別途連絡します。	2024年7月18日(木)	一般・外国人留学生・APU特別受入
	2024年5月30日(木) ～2024年6月13日(木)	2024年7月7日(日)	2024年7月25日(木)	学内進学
2025年 4月入学	2024年7月11日(木) ～2024年7月25日(木)	2024年9月14日(土)	2024年10月3日(木)	一般・社会人(一般)・社会人(自己推薦)・社会人(協定)・ 外国人留学生・学内進学・APU特別受入
	2024年12月5日(木) ～2024年12月19日(木)	2025年2月1日(土)	2025年2月20日(木)	一般・社会人(一般)・社会人(自己推薦)・社会人(協定)・ 外国人留学生・学内進学・APU特別受入・飛び級

※9月入学の一般・外国人留学生入試では日本語教育学コースは募集しません。



立命館大学 衣笠独立研究科事務室

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL:075-465-8363 FAX:075-465-8364
E-mail: doku-ken@st.ritsumeit.ac.jp



Q 立命館 言語教育情報

